

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月2日				
姫路市立こども発達支援センター						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動内容に合わせて遊ぶ場をクラス間で調整しながら使用している。	・雨の日や親子通園の日は遊戯室など混み合うため、活動内容や時間調整を行う必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・活動内容や給食場面などに応じて、必要な職員配置が行えるようセンター全体でサポート体制をとっている。	・配置基準は満たしているが、こどもの状態や活動内容によっては不足を感じることもある。今後も配慮の必要性を適切に判断し、フォローをあげていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・園庭側の出入り口に段差があるため、必要時にスロープを設置するなどしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・室内のじゅうたんはジョイントマットを使用し、汚れた際は部分的にはずして洗えるようにしている。 ・トイレを利用する時間帯が重なりやすいが、こどもに応じて人数が少ない時間に使用できるようにしている	・日々の清掃に加えて、定期的にカビ取り剤を使用するなど衛生管理の徹底と、毎月1回の安全点検を継続しながら快適に過ごせるようにする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・刺激量を制限したほうが落ち着きやすいこどもについて職員間で情報共有し、こどもにとって安心できる環境を整えられるようにしているが、施設の構造上、対応しにくい場合もある。	・今後も園全体でこどもの安心・安全を保障していけるように情報共有や環境の見直しを行う。また、保育室以外の共有スペースの活用も継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・方針をもとに年間計画をたてて保育を実施。中間と年度末に総括を行い、保育内容や業務改善等について検討し、次年度の方針に反映できるようにしている。 ・毎日、朝終礼を行い、こどもの情報やインシデント事案等を共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートや事業所評価の実施等、保護者の思いや要望を聞く機会を設けている。	今後も保護者の意見や要望を丁寧に聞き説明したり調整することで、よりよい支援を提供できるようにする。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談や会議等で、改善が必要と感じる業務について提案できる機会を設けている。	提案内容について改善策を検討しているが、気になった時に提案できる職場環境、職員関係となるよう尊重し合える関係を継続し、よりよい支援につなげたいと考える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後の支援に反映させられるよう、第三者による客観的な意見を聞く機会を設ける。(令和8年1月下旬ごろ実施予定)
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		経験年数やスキルアップしたい内容に応じた職員個々での受講や、保育士全体のスキルアップを目的とした外部講師を招いての研修等を組み合わせて実施している。また、多職種での事例検討を定期的に実施。こどもを捉える視点、自分の見立てを言語化する経験となりスキルアップにつながっている。	今後も職員がスキルアップできるような研修や勉強会、福祉情勢の情報などを職員間で共有し、支援の充実につなげたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		「という」が大切にしながら実践する保育について職員で話し合って作成した。また、外部の人が見て分かりやすい表現を心がけた。当センターのホームページに掲載しているが周知が十分にできていない。	施設内に掲示するなど、閲覧しやすい工夫を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日常的に保護者とこどもの姿を共有することや懇談で保護者の思いを丁寧に聞き取るなどで、こどものニーズや課題を分析し、支援計画を作成している。	日々の記録が、適切なアセスメントのベースとなることを理解し、可能な限り数量、時間など評価しやすくなるよう具体的に記載する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		そのこどもに携わる多職種でクラス会議やカンファレンスを実施。こどもの育ちや支援の方向性、具体的な支援内容等について各担当者の意見をすり合わせ、計画に反映させるようにしている。	クラス会議は、限られた時間の中で一人一人のことについて十分に検討できない場合がある。検討の下地として、日常的な情報共有や意見交換を積極的に行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		保護者の同意を得た後、担当者への回覧とクラス会議で懇談内容の報告を行っている。また、普段の保育の中でも計画をもとに支援の方法を工夫している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		こどもの行動について、問題点だけでなく、強みにも着目して日々の観察を行っている。多職種でのカンファレンスなど、多角的な視点でこどもの姿を分析、評価している	アセスメントした内容を担当者間で共有することで、こども理解や支援方法に差異が生じないようにする。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインで求められる項目を網羅した書式としており、生活全般を意識した内容となっているようにしている。具体的な支援内容については、保護者とともに「家庭で取り組むこと」を設定し、園と家庭が協力し合って取り組む内容としている。	こどもの生活やあそびは「5領域」が重なりあうため、目標達成のための主たる領域項目の整理が必要である。今後も、保護者にとってわかりやすく、具体的な取組が示せるように意識する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育内容の土台として年度初めに年間計画を作成し、期・月・週・日のプログラムを計画している。毎月中旬頃に次月の予定を担当で考え、全クラスで保育内容の共有を図ること園全体としてのあそびの流れが作れるようにしている。	こどもの経験が細切れにならないように遊びのつながりを意識する。活動内容について、クラス担当のリハスタッフにも相談するなどして、こどもが楽しめる工夫をしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日通園の利点を生かし、同じ活動を積み重ねる中でこどもの様子に合わせて、スモールステップで変化させるなど、初めてのあそびでも安心して参加できるよう努めている。	繰り返す目的を意識的に職員間や保護者と共有する必要があるが、伝えられていない可能性もある。こどもの変化に合わせて「確認するポイント」を保護者に伝えられるように、職員の説明力を高めることも必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の興味や関心に沿ってじっくり遊ぶことと、友達の遊ぶ様子を見て「自分もやってみよう」という意欲に繋げていくこと、両方を大事にした支援を行っている。	個別活動と集団活動をどのように組み合わせるかは、個々のこどもにより異なるため、一人一人の成長を促す上で大切にポイントを適切に押さえておく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日に打ち合わせができない場合は、当日までに行うよう意識している。園外保育や行事など、イレギュラーな内容の時は特に入念な打ち合わせを行い、リハスタッフとも確認をしている。バス添乗等で参加できない場合は、ノートの活用などで確認できるようにしている	その日の保育、こどもの様子を踏まえて翌日の確認ができる時間枠を設定する。確認内容をノートに記録するなどして、バス添乗や勤務時間の都合で参加できない職員も把握できるよう可視化に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りを行い、こどもの様子、保護者からの連絡や相談、気付いた点等、翌日の保育に反映させることやこどもへの関わりなどを話し合い、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保育記録を毎日記入し、担当者間で話し合う際に見直して個々の成長や課題を確認している。また、過去に遡ってこどもの様子を参照することで今の課題の原因を探り、保育に活かすこともある。	保育や支援のつながりを意識した記録となるよう、記録に関する個々のスキルアップが必要。日々の記録が、適切なアセスメントのベースとなることを理解し、可能な限り数量、時間など評価しやすくなるよう具体的に記載する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年ごとに懇談を実施。こどもの成長に即した支援が行えているかや達成度等を確認し、見直した内容を支援計画に反映させている。	
関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担任をはじめ児発管や管理者の他、検討課題に応じて花北診療所の医師、看護師、療法士などこどもに関わる職員が参加している。	他事業所を併用されているセルフプランの方の担当者会議については、今後、意識的に開催を呼びかける必要がある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		障害福祉課、こども保育課、育成支援課など必要な関係機関と連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就園予定先と情報交換をしたり「という」で様子を見に来ていただく機会を設けるなど、移行に向けた取り組みを行っている。	今後も地域園所への移行を検討するケースについて個別交流への同行することや、こどもの特性や具体的なかわりについて園所と相互理解を図れるようにする。また、保護者が園所の職員とつながっていけるようサポートしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		教育機関から実態把握のために園でのこどもの様子を見に来られたり、担任が学校に引継ぎに行ったりしている、保護者は引継ぎのツールとしてサポートブックやあしあとを作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		併用している事業所への見学や情報交換、担当者会議を行うなど顔の見える関係作りに努めている。また、地域の事業所からの見学実	地域の発達支援の中核的な立場として、今後も地域の事業所とのつながりを深め、地域全体の支援力向上となる取り組みを行う。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修を受講した職員は、伝達研修を行い職員間で共有している。また、職員の資質向上を目的に年に1回、外部講師を招きスーパーバイズを受けている。	オンライン研修が一般的になり、受講しやすくなっている。受講する職員の偏りが出ないよう公平性を保ち、全体のスキルアップにつなげていく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会（こども部会）加や事業所部会主導で立ち上がった「ひめじっこネット」に参画している。	児童発達支援センターとして積極的に参加し、地域課題を把握し必要な支援について検討していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			対象外	対象外
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		こども保育課との連携で近隣園との交流保育が定着しており、希望する親子が参加している。また、就園や地域の学校への就学を希望している場合は、居住地区区の園所との個別交流に職員が同行している。	交流保育の実施は定着しているが、交流保育の経験がない職員もいるため、児発管が同行しながら意義が継承できるようにしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や親子登園日、個人懇談、れんらくノートや電話等を活用し、こどもの姿を共有している。	通園バス利用児の保護者とは密に情報交換する機会を設けにくいため、相談ノートや電話、親子登園日に写真や動画を用いて共有していく工夫を継続する。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者からの相談内容からテーマを絞り、クラスごとの振り返りや専門職の講義などを行うようにしている。また、月曜の親子保育に参加しにくい保護者を対象に休日の保育参加日を設け、こども理解や関わりのポイントなどを体験してもらえるようにしている。	保育参加日は父親からも好評で、今後も継続したい。一方で、参加される方が決まってきており、参加しにくい家庭、保護者へのアプローチは課題である。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		保育見学会、入園説明会、入園式・始業式等の機会にスライドや書面（重要事項説明書）を用いながら行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別懇談で保護者、こどもそれぞれのねがいをすり合わせながらこども主体の計画となるように考えている。	大人のねがう目標設定となりやすいことを意識しながら、こどもの意向を代弁しながら保護者の意向とすりあわせていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画案を提示して目標や具体的な取組について説明している。あわせて家庭でも取り組めることを確認し、保護者の同意を得るようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個人懇談のほか、送迎時や親子登園日、相談ノートや電話等を活用して相談しやすい環境づくりに努めている。	職員個々の経験によっては、その場で適切な助言が難しい場合もあるが、上司や専門職と相談し対応していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会活動が活性化するよう、後方支援を行っている。 きょうだい参加日や保育参加日の実施など家族が来所、参加できる機会を設けている。また、クラス単位での振り返りの時間を設け、悩みの共有や子育てに役立つ情報交換が行えるようにしている。	低年齢のきょうだい参加できる機会を求められており、早急に検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった時は管理者や児発管等に報告している。家庭訪問・送迎バスの調整・保護者のメンタルケア等、多岐にわたる対応をしている。	相談内容により、担当者間での検討が必要な対応に時間を要する場合は、その旨を保護者に説明したり進捗状況を報告したりすることを徹底する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		情報発信は紙媒体が中心になっている。緊急時はメールでの一斉配信を行う。	個人情報保護の観点からSNSを利用した発信は行っていない。HPを通じた情報発信について検討を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		年度当初に個人情報に関する同意を書面で得ている。引継ぎ等で持ち出す必要がある時には個人情報保護管理責任者への報告と管理簿への記入などの規定がある。	今後も、姫路市情報公開条例及び個人情報の保護に関する法律、姫路市個人情報の保護に関する法律施行条例に基づき厳正に取り扱います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭説明だけでは伝わりにくい時は、ノート等を活用している。また、そのこどもや保護者にとってわかりやすい言葉、方法で伝えることを意識している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		コロナ禍以降、「花の北福祉まつり」の代替行事として「出前授業」として取り組み、総合福祉通園センターの概要について説明している。	対象が中学生であるため、わかりやすい言葉や興味を持ちやすい内容に工夫しているが、アンケート等からブラッシュアップしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・保護者に周知をされていると思うが、どこまでどのような話をしているのかわからないところもある。 ・マニュアルがあることは知っているが、実際に起こった時に対応ができるのかという不安がある。	マニュアルの見直し等を図り、説明を行っているが「わからない」という意見がある状況はリスクが高い。できるだけ多くの職員で携わりながら見直すことや、マニュアルに沿った対応訓練などを取り入れ、安心・安全な運営となるように早急に改善したい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・1回/月の避難訓練を実施している。 ・こどもの個人備蓄食料、常備薬について一人一人食べさせ方や薬の飲ませ方を確認している。 ・BCPについて説明は受けたが、紙資料がどこに保管されているのかわからない。	・園の地形の特性にもよるが、避難訓練の想定についてバリエーションをひろげての実施を検討する（垂直避難など）。 ・BCPの保管場所について、再度職員に周知を図るとともに、目につきやすく「いつも」確認できる保管場所へ変更する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・保育時間中は健康調査票を各保育室で管理。健康面の変化を感じた際に、すぐ確認し適切に対応ができるようにしている。 ・薬の変更等については看護師と一緒に聞き取りを行うようにしている。 ・発作時の対応等が変更になった場合は、速やかに職員へ周知している。	処方されている薬の量や種類に変更はないが包数が変わったなども含め、これまでと異なることがある場合は、必ず報告していただくことを保護者に改めて依頼し、安全に対応できる体制を整える。また、預かった薬に疑問や不安を感じる場合は、必ず保護者に確認が取る。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・今年度、複数の食物アレルギーがあるこどもへの給食提供に際し、診療部、給食部と連携し個別マニュアルを作成、職員への周知を行った。また、保護者にも対応方法について説明し、同意を得ている。 ・食事介助の職員へ説明する場を設け、安全に提供できる体制を整えた。	実際に運用してみて、マニュアルに不備や改善点などはないか、確認する機会を設ける。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		保育所等に準じた安全計画を策定している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者会で策定済みの報告を行っている	・保護者への説明内容の詳細について、職員に報告し、担任が説明内容を把握できるようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		終礼で事案の報告と原因の分析、再発防止策を検討し、報告書を作成。報告書を回覧し再度周知をしている。	安全な環境を整えられるように、発生した事実だけでなく保育場面などでハッとしたこと（発生しそうな状況）を報告、共有する。 ・終礼に参加できない場合は各自ノートで確認するようにしているが、確認漏れを防ぐため終礼ノートを目に付くところにで管理することも検討する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・人権チェックリストを用いたグループワークを行ったり、虐待についての研修受講とその伝達研修の実施等、自分たちの支援内容や関わりを見つめなおす場が設けられている。 ・要保護児童対策地域協議会との連携を図っている。	こどもに対して不適切な関わりではないかと感じた時は、どのような関わりが良かったのか、ともに考えられる職場となるよう日頃からコミュニケーションを図る。職員同士で直接伝えにくい場合は上司に相談する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		転落防止や姿勢保持のためのベルト等も含め使用場面、時間、使用しない場合等を検討している。計画への記載と合わせて書面で保護者に説明し、同意を得ている	実施する場合だけでなく、解除に向けた取り組みの検討も行っていく。